

# 「静岡の茶草場農法」の世界農業遺産の認定と経過について

静岡県掛川市お茶振興課

## 1 概要

平成 25 年 5 月 29 日～6 月 1 日に石川県七尾市を主会場に、世界農業遺産国際会議が開催され、5 月 30 日その席上において、「静岡の茶草場農法」が、「阿蘇の草原の維持と持続的農業」、「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」及び外国の 3 地域とともに、世界農業遺産として FAO（国際連合食糧農業機関）に正式に認定された。

この結果、世界農業遺産は、これまでの 19 地域（うち日本では、「トキと共生する佐渡の里山」と「能登の里山里海」が認定）とあわせ、世界で 25 地域（現 31 地域）、うち日本国内では 5 地域となった。（静岡の茶草場農法は「世界で 20 番目、国内で 3 番目」の認定。）

世界農業遺産とは、国際連合の食糧農業機関（FAO）が始めた登録制度で、当初は、発展途上国の農業を紹介し、地域を発展させるための制度として発効したが、現在は、世界の重要な農業システムを後世へと残すための認定制度となっている。

この世界農業遺産の認定により、受け継いできたこの農法の価値を認識すると共に、策定した「静岡の茶草場農法」GIAHS アクションプランに基づき、より一層の持続可能な農業生産活動と、生物多様性保全への取り組みを推進していく。

## 2 静岡の茶草場農法の世界農業遺産としての価値

茶草場農法とは、茶園周辺で刈り取ったススキやササなどを、茶畑の畝間に投入する農法で、この投入する草を刈り取る採草地を茶草場と言う。かつては日本各地で見られたこの茶草場農法であるが、生産方法の変化や時代の変化にともなって、現在では静岡県などごく一部だけで続けられている。その中でも静岡県の茶農家は、この農法を行うことでお茶の品質が向上するとして伝統的に行ってきた。

この伝統的に継続されてきた茶草場農法により、茶草場は、貴重な生物（キキョウ等の植物や、羽のないバッタ「カケガワフキバッタ」等の動物）が住む特別な場所となっている。高品質な良いお茶を作ろうとする農家の営み・努力と生物多様性の確保が両立しているこの地域は、世界的にも非常に珍しい貴重な事例となっている。

## 3 認定に至る経過（掛川市及び推進協議会の主な取り組み）

平成 12 年	掛川市、5 年周期の各種自然環境調査を開始（現在 3 周目継続中） 調査の中で東山地区等の希少な植物等を確認
平成 18 年 7 月	「掛川市自然環境の保全に関する条例」制定
平成 19 年 4 月 9 日	掛川市、条例に基づき、東山茶草場に生息するカケガワフキバッタ、 フジタイゲキを希少野生動植物に指定
平成 19 年	静岡県農林技術研究所、茶草場に着目し調査開始
平成 20 年 1 月 25 日	掛川市、条例に基づき、上記 2 種生物の保護区指定(栗ヶ岳南斜面の一部 1.8ha)。同日、東山地区及び地権者等と「指定希少野生動植物種東山保護地区協定締結」
平成 22 年 10 月	生物多様性条約締約国会議（COP10）の関連イベントで、東山地区の茶草場の事例が報告され、評価を受ける
平成 24 年 3 月 13 日	東山地区、農林水産省第 17 回環境保全型農業推進コンクールにて「優秀賞」を受賞
平成 24 年 4 月 10 日	掛川市、世界農業遺産に向けた取り組み開始

平成 24 年 10 月 11 日	4 市 1 町（掛川、菊川、島田、牧之原、川根本町）による推進協議会設立
平成 24 年 11 月 26 日	推進協議会、第 2 回総会で認定申請を決定
平成 24 年 11 月 30 日	静岡県、国連大学から推薦を受ける
平成 24 年 12 月 19 日	農水省から協力の承認を受ける
同 28 日	国際連合食糧農業機関（FAO）へ申請
平成 25 年 2 月 21～22 日	FAO による現地調査
平成 25 年 5 月 30 日	石川県で開催された世界農業遺産国際会議において認定
9 月 20 日	茶草場農法実践者認定制度開始
平成 26 年 8 月～3 月	茶草場農法応援制度検討委員会で農法持続のための応援手法検討
平成 27 年 1 月～2 月	GIAHS 景観改善事業（防霜ファンの色彩調和）の実施
平成 27 年 6 月	世界農業遺産「静岡の茶草場農法」応援制度について答申
平成 28 年 1 月	応援制度答申を受け、企業 CSR 茶草場作業ボランティアモデル実施
平成 28 年 4 月 28 日	世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会事務局を 静岡県に移管し静岡県知事が会長となる

※ 平成 29 年 2 月現在、実践者数 88 件（団体）496 戸、茶草場面積 423ha

うち、掛川市の実践者数 33 件、215 戸、茶草場面積 264ha

※ 平成 29 年 7 月現在、生物多様性貢献度シール表示届出者 128 件

生物多様性貢献度シール販売（1 枚 5 円）枚数 2,510,738 枚

#### 5 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会としての今後の取り組み

- ・他サイトと連携した世界農業遺産の認知度向上事業の実施
- ・茶草場及び茶草場農法の維持と拡大につながる応援制度の実施  
（広報・企業応援・基金・作業応援・グリーンツーリズムなど）
- ・管内関係者・住民向けフォーラム、シンポジウムの開催
- ・ホームページ等による PR 充実
- ・その他、アクションプラン（茶草場農法の維持に関する実施計画）の進行管理 等



本報の会

H29.8.1

筑波大学HOME > 農林技術センターHOME > 生産技術班について

祖業

筑波大学農林技術センター  
Agricultural and Forestry Research Center

ホーム TOP PAGE	センター紹介 INTRODUCTION	センター活動 ACTIVITY	利用案内 CAMPUS ONLY	お問い合わせ CONTACT	English
-----------------	------------------------	--------------------	---------------------	-------------------	---------

MENU

- センター長挨拶
- 教育/実習案内
- 国際交流 (Ag-ESD)
- 受賞・表彰
- 教員一覧
- 生産技術班
- 出版物
- アクセス
- サイトマップ
- サクラソウデータベース
- 収獲物販売 (ブログ)

生産技術班について

■農林技術センターの現状と将来展望

- 本センターは、実習を中心とした教育、教員や学生による研究以外に、社会に役立つ技術や情報などを発信する場であることを意識して日々の活動を行っています。本センターは、他大学などの利用が多いことも特徴です。
- 農林生産技術部の組織は、農場部門（筑波地区）と演習林部門（筑波実験林・八ヶ岳演習林・井川演習林）に分けられます。農場部門には、作物（水田作・畑作）、園芸（果樹・蔬菜・花卉）、畜産（飼養・飼料作）、農業機械（農機整備・金工・木工）からなる各生産技術班が設けられています。
- 本センターは、広大なフィールドを管理しています。筑波地区に農場部門および演習林部門筑波実験林が約40haを、長野県八ヶ岳地区に八ヶ岳・川上演習林が約280haを、静岡県井川地区に井川演習林が約1800haをそれぞれ保有しています。本センター筑波地区の緑地は大学緑化に貢献しています。
- 演習林部門は大きく3箇所に分かれており、それぞれに教員と技術職員が勤務しています。
  - 作物生産技術班
  - 園芸生産技術班
  - 畜産生産技術班
  - 農業機械生産技術班

生産技術班 担当者一覧

■各班担当者一覧

作物生産技術班

- 水田作と畑作の2部門で構成されています。両部門とも作物生産を通して実習に参画するとともに、環境負荷が小さく安定した作物生産技術の開発に向けた研究に取り組んでいます。
- 水田作部門では、コシヒカリの稚苗移植栽培を中心に実習を行っています。また、遺伝資源保存事業として水稲および陸稲を毎年栽培し、品種特性の年次変動の評価を行っています。移植栽培では、環境負荷の小さい栽培技術体系の評価や個別技術の開発に取り組んでいます。そのほかに、毎年同じ施肥設計で連用施肥試験を継続して行っています。



- 畑作部門では、サツマイモ・ジャガイモ・ラッカセイ・ソバ・コムギを主体とし、大型圃場4区画を計画的に輪作しています。実習はサツマイモやラッカセイを中心とし、施肥展示圃および資源作物栽培を活用して行っています。研究としてはサツマイモとラッカセイの栽培について、投入エネルギーと産出エネルギーの計測、マルチ資材の利用による環境負荷の小さい栽培技術体系の確立などを行っています。（作物見本圃のブログ）

園芸生産技術班

- 花卉・蔬菜・果樹の3部門で構成されており、花卉部門は施設栽培を中心として、蔬菜部門はほ場栽培と施設栽培の両方を、果樹部門はほ場栽培を中心としています。
- 花卉部門では、ガラス温室などの施設を用いて、花卉遺伝資



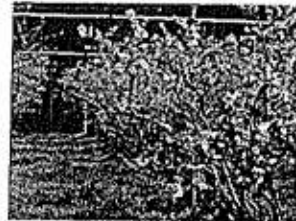


源の保存と施設園芸生産を行っています。花卉遺伝資源には、ラン類、多肉植物・サボテン類、二ホンサクラソウなどを有し実物教育や研究材料として活用されています。研究としては、温度や光による開花調節、各種矮化剤・微生物資材・有機物資材・ノンストレス肥料などの適用性の実験を行っています。



● 野菜部門では、施設および露地ほ場を用いて実習の場を提供するとともに、養液栽培を中心とした野菜の栽培技術の開発を行っています。施設にはNFT水耕装置を導入し、省労力生産技術と高糖度トマト生産技術の研究や、トマト・メロン体系の作型で養液栽培および葉菜類の補光栽培技術の研究を行っています。露地園場では、季節に合わせた野菜の生産を行っており、実習用の材料を提供しています。

● 果樹部門では、ほ場を用いた実習や研究の場を提供しています。本園の特徴の一つは、ブルーベリーを栽培していることです。ブルーベリーは新しい果樹で、健康に良い果物として注目されています。栽培するブルーベリーには、「ハイブッシュブルーベリー」と「ラビットアイブルーベリー」の2種があり、品種を組み合わせることで6月上旬から9月上旬まで継続的に収穫できます。



本園で栽培面積の多いナシは、「幸水」や「豊水」など14品種の日本ナシと3品種の西洋ナシを栽培しています。そのほかにブドウ、リンゴ、モモ、ウメ、カキ、クルミ、キウイなども栽培しています。

#### 畜産生産技術班

● 飼養と飼料作部門で構成されています。家畜生産に関する教育と研究を行うことを目的に、乳牛（ホルスタイン種）、沼沢水牛（しょうたくすいぎゅう）、ヒツジ（サフォーク種）、卵用鶏の飼育を行っています。このなかで、沼沢水牛は東南アジア各国で広く飼育されている農耕用の家畜ですが、日本では大変珍しい動物で、日本の大学で飼育されているのは本学と東京農業大学富士畜産農場だけです。これまでに繁殖生理学や栄養生理学、環境生理学などの研究に利用されてきました。



● 飼養部門では、乳牛と水牛は、ルーズハウジング方式で飼養し、乳牛の搾乳はミルク・パーラーで朝・夕方2回行います。

主な設備としては、バンカーサイロ、給仕のためのベルトコンベアーが設置されています。また、現在使用していませんが、エアータイト・スチール・サイロがあります。

主な研究としては、水牛の環境生理・繁殖・飼養、ニフトリの繁殖生理などを行っています。

● 飼料作部門では、粗飼料は約7.5haの園場の約5haに飼料用トウモロコシ栽培し、サイレージとして周年給与しています。残りの約2haにはすき込み用の牧草を栽培し、地力維持に努めています。主な研究課題としては、本センターに適した飼料用トウモロコシの栽培体系を確立することを目的とした品種の比較実験を行っています。



[ホーム](#) [センター紹介](#) [センター活動](#) [利用案内\(学内専用\)](#) [お問い合わせ](#) [English](#)

Copyright© 2014 Agricultural and Forestry Research Center, University of Tsukuba. All Rights Reserved.

# 農林技術センター

## Agricultural and Forestry Research Center

センター案内  
INFORMATION

筑波大学キャンパスの北エリアに39.75ヘクタールの広大な面積を持つ「農林技術センター」は、1973年の本学開学時に、教育と研究を通して農林技術の向上発展に寄与することを目的に設置されました。教育研究推進部、農林生産技術部、事務部で構成されています。

### 教育研究推進部

習得教育の庶務業務に加え、**利用者の研究支援**、**国際交流活動**、**地域社会貢献**、**環境保全活動**、**学生ボランティア活動**、**社会活動**の展開に取り組んでいます。



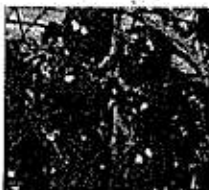
飼育場ラッパ農場



水田では特別産地帯が指定されている

### 農林生産技術部農場部門

農場部門は、作物班(水田、畑作)、園芸班(花卉、果樹、野菜)、畜産班および農業機械班からなり、多くの植物・動物を栽培・管理し、様々な教育研究を行っています。また、生産物販売も行い安全・安心な生産物を地域に提供しています。



高産トマト



ナシの品種、リンゴ、カキ、ブドウ、ブルーベリー、タリなどが見られる



筑波大学で育成したケンケン品種

### 農林生産技術部演習林部門

演習林部門は、筑波地区にある筑波実験林と、長野県の八ヶ岳・川上演習林、静岡市の井川演習林の3カ所に分かれており、それぞれの気候条件や地形、林相などの特色を生かした様々な教育研究を行っています。



乳牛の飼育、およびヒツジ、ニワトリが飼育されている



大型農機から中小型農機まで揃っている



産駒、工場の廃材など作材を公開している

### 筑波地区略図

筑波地区には、センター本館、農場部門のほか各種実験施設・園場と筑波実験林、植物見本園があります。

本工で制作した施設の見本

2km:500



筑波実験林

名称	所在地
1 畜産班	101
2 園芸班	102
3 作物班	103
4 農業機械班	104
5 畜産班	105
6 園芸班	106
7 作物班	107
8 農業機械班	108
9 畜産班	109
10 園芸班	110
11 作物班	111
12 農業機械班	112
13 畜産班	113
14 園芸班	114
15 作物班	115
16 農業機械班	116
17 畜産班	117
18 園芸班	118
19 作物班	119
20 農業機械班	120
21 畜産班	121
22 園芸班	122
23 作物班	123
24 農業機械班	124
25 畜産班	125
26 園芸班	126
27 作物班	127
28 農業機械班	128
29 畜産班	129
30 園芸班	130
31 作物班	131
32 農業機械班	132
33 畜産班	133
34 園芸班	134
35 作物班	135
36 農業機械班	136
37 畜産班	137
38 園芸班	138
39 作物班	139
40 農業機械班	140
41 畜産班	141
42 園芸班	142
43 作物班	143
44 農業機械班	144
45 畜産班	145
46 園芸班	146
47 作物班	147
48 農業機械班	148
49 畜産班	149
50 園芸班	150
51 作物班	151
52 農業機械班	152
53 畜産班	153
54 園芸班	154
55 作物班	155
56 農業機械班	156
57 畜産班	157
58 園芸班	158
59 作物班	159
60 農業機械班	160
61 畜産班	161
62 園芸班	162
63 作物班	163
64 農業機械班	164
65 畜産班	165
66 園芸班	166
67 作物班	167
68 農業機械班	168
69 畜産班	169
70 園芸班	170
71 作物班	171
72 農業機械班	172
73 畜産班	173
74 園芸班	174
75 作物班	175
76 農業機械班	176
77 畜産班	177
78 園芸班	178
79 作物班	179
80 農業機械班	180
81 畜産班	181
82 園芸班	182
83 作物班	183
84 農業機械班	184
85 畜産班	185
86 園芸班	186
87 作物班	187
88 農業機械班	188
89 畜産班	189
90 園芸班	190
91 作物班	191
92 農業機械班	192
93 畜産班	193
94 園芸班	194
95 作物班	195
96 農業機械班	196
97 畜産班	197
98 園芸班	198
99 作物班	199
100 農業機械班	200

筑波地区のセンター内施設

筑波地区のセンター外施設





農林技術センターでは、農林業生産現場における実習や附属坂戸高校生を対象にした実習、他学類生を対象とした総合科目をはじめ、国際農学ESDを活用した大学院教育におけるインターンシップ教育などさまざまな教育活動を行っています。

#### 生物資源生産科学実習

農林業生産に関係する理論と技術を体験的・体系的に理解・習得することを目的とした実習で、作物（水田、畑作）、園芸（野菜、果樹、花卉）、畜産、農業機械、緑資源の各分野を対象にした総合的な実習です。



大型トラクタの運転実習



農薬の注入



しいたけ菌糸の栽培

#### 生物生産システム学実習

植物資源ならびに動物資源の生産分野に関する専門的実習です。受講者は、作物、園芸、畜産ならびに森林のいずれかのコースを選択し、それぞれの専門的内容を学習します。さらに、各自テーマを設定した圃場管理試験等を行い、実習最終日にコース毎に成果発表会を行うプロジェクト学習も実施します。



実験水田における水稲苗の移植



実験圃場の水稲栽培



ナンの果実色の測定

#### 総合科目：フィールドに学ぶ食と緑

他学類学生を対象として、作物や家畜、樹木とそれらの生産物のほか、日常生活の中で接することの多い動植物やその育成技術を取り上げて、文化や社会、経済や環境の問題と関連づけるという多様な視点からの講義と、これに関連して動植物などに実際に触れる体験学習を行っています。



講義の様子



ウンとのふれあい

#### 国際農学ESD (Education for Sustainable Development)

食料・環境・生物資源利用の分野で国際的に活躍できる人材の育成を目指して、毎年テーマを決めてアジア、アフリカを中心に各国の研究者を招いたシンポジウムを開催しています。さらにタイ、インドネシアおよびフィリピンの大学間交流協定校から若手研究者を招聘し、本学大学院生と共にトレーニングプログラムを実施しています。



畜産実習実地実習

# 農林技術センター

Agricultural and Forestry Research Center

センター案内  
INFORMATION  
〈研究活動〉



農林技術センターでは、教員および技術職員が、作物、園芸、畜産、農業機械および演習林の各部門で、農林業の発展に資する固有の研究活動を実施しています。

## 作物部門

水田および畑地を用いて、環境負荷の少ない作物生産技術開発する研究を実施しています。水田では作物生産と環境負荷の総合的な関連や、肥料要素に関する研究、特別栽培と米の品質などについて、畑作ではソバ、ジャガイモ、サツマイモを中心に高位安定生産と関連した研究を実施しています。



水田におけるメタンと環境負荷の測定



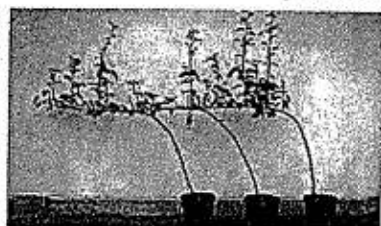
ジャガイモの特別栽培

## 園芸部門

野菜では最終的に50kg/m<sup>2</sup>/年以上の年間収量を目指したトマトの高度生産システムに関する研究、果樹では栽培管理の大幅な省力化、簡易化を目指した樹体ジョイント仕立て法や養液栽培法、花卉ではサクラソウの遺伝資源保存に関する研究を実施しています。



トマトの高度生産システム



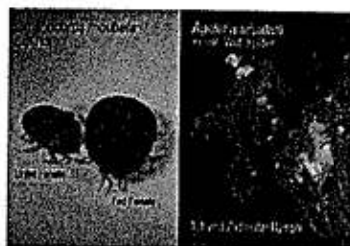
アサの樹体ジョイント仕立て

## 畜産部門

始原生殖細胞を用いて生殖系列キメラ個体を作製する技術開発研究や、内モンゴルにおける適切な牧畜の確立をめざした研究ならびに先端的画像処理技術を用いた新しい牛の分娩管理システムの開発などの研究を実施しています。また、人畜に関連したマニ・クモ類の変態、生殖および生体防御の分子生物学的研究も実施しています。



内モンゴルにおける牧畜の様子



ゴニオクモ

## 農業機械部門

トラクタの自律走行、農作業や農作業計画の最適化を目指した農業機械の知能システム化、油料作物を対象とした収穫物の熟度判定センシングシステム、バイオマスを主な対象とした地域分散型再生可能エネルギーの計測・シミュレータの開発や棚田の保全などの研究を行っています。



トラクタの自律走行



フィールドセンサーを用いた収穫判定



棚田の保全

## 演習林部門

八ヶ岳演習林、川上演習林、井川演習林を主な研究現地として、環境変化や外来種の侵入が生物多様性に与える影響、鳥獣害、森林の更新動態とバイオマス変動のメカニズム、土砂崩壊や土石流による土砂の生産と森林管理との関係などについて研究しています。また、信州大学、岐阜大学と共同で「中部山岳地域の環境変動の解明から環境資源再生をめざす大学間連携事業」を開始しました。



クマによる鹿被害





農林技術センターでは、畜産、園芸、作物各分野の公開講座の他、各種分野で様々な社会貢献活動を実施しています。

#### 雑穀を用いた食育

自律的市民の育成を目指した「食と緑の地域連携プログラム」、小学校がパートナーとなって雑穀遺伝資源を維持・増殖する「パートナーシップによる雑穀遺伝資源保存」とともに、小学校の総合学習の時間を用いて雑穀を播種から収穫・調理まで実施する「雑穀を用いた食育」を行っています。



小学校における雑穀食育



ヒエの製法

#### さくらそう展

市民がパートナーとなってサクラソウの遺伝資源を保存する「サクラソウ里親制度」で維持する日本最大のサクラソウ遺伝資源を、筑波実験植物園と連携して「さくらそう展」で一般展示しています。



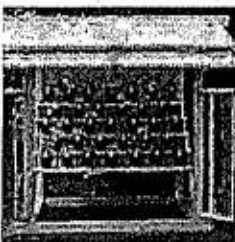
作物系本圃を校外学習する児童



農林技術センターで保存されているサクラソウ

#### ソバ研究会

全国的なソバの研究成果を報告し、職種を越えた情報交換を行う研究会を開催しています。



サクラソウの製法作り



多様なサクラソウ

#### きぼうのさくらプロジェクト

全国からあつめた有名なサクラの種子を有人国際宇宙ステーション、日本実験棟きぼうの中で保管し、帰還した種子から育成した苗を、将来の教育活動に利用する目的で全種類維持する活動です。



ソバ研究会における研究発表



1/3, 6/3展示

#### 酪農教育ファーム

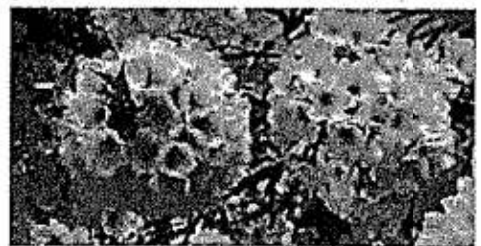
中央酪農会議が認定する酪農教育ファームの一環として、公開講座「ウシとミルクの世界」を実施するほか、自宅でチーズを作る技術を修得する「自家製チーズを楽しむ」を実施しています。



田舎人の広場



自家製のチーズ作り



宇宙から帰った全国の有名なサクラを保存します



29.7.31

①  
茶園に  
見学終了



②  
竹ササ



③  
ススキ等  
刈取後  
収束内蔵



29.7.31

④

お茶の収穫  
総て開帳  
して頂いた



⑤

刈取った  
ススヤ収納



⑥

茶園の畝  
にススヤが  
敷いている



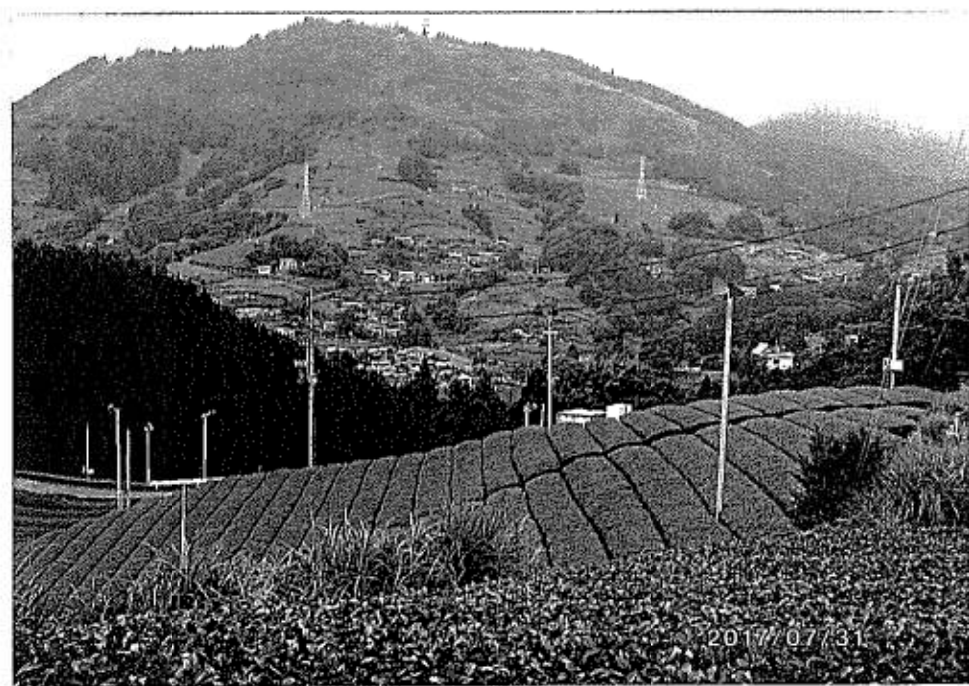


29.7.31

⑦



⑧



⑨

29.7.31

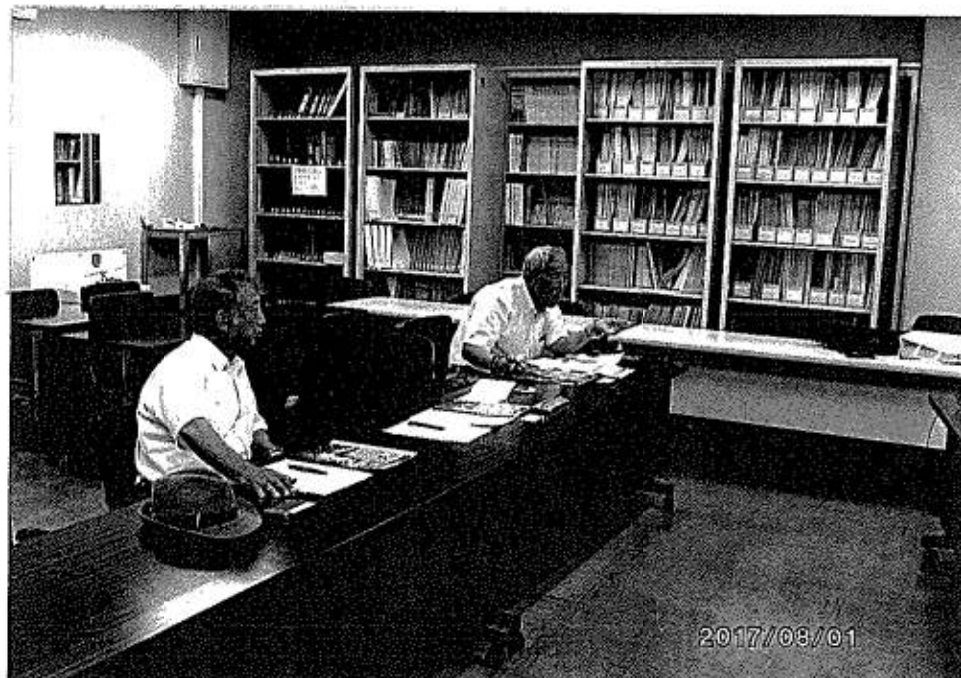
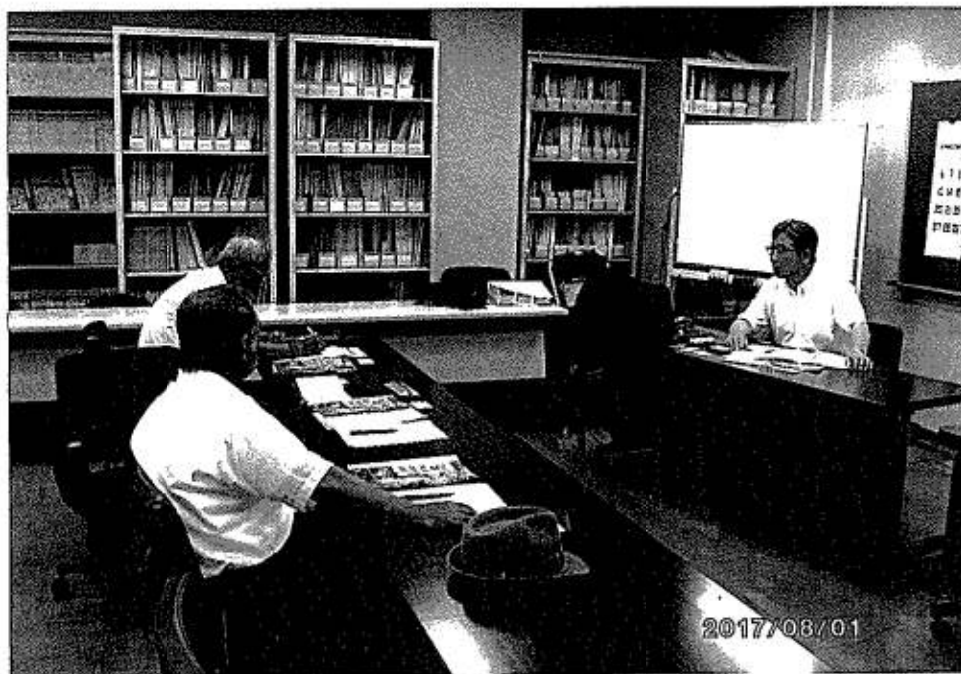
10



2017/07/31

C

B





29.8. 1



作物見本園  
と視察する  
食物作物  
工業作物



林教授の  
植物状況に  
ついて説明  
された。



稲の状況  
（学生が実習中）



29.8. 1

水耕  
トマト栽培



低木  
トマト栽培



りんごの  
トマト栽培  
連続栽培